一般住宅の室内温熱解析による省エネ・CO₂排出量削減効果

ロックウール工業会 環境委員会 2008年10月23-24日

1. はじめに

ロックウール工業会では、2007年の春より、一般住宅に関して、断熱材使用有無による省エネルギー効果やCO₂排出量削減効果の把握を目的に、室内温熱解析用ソフトを利用したシミュレーション調査を行ってきた。

今回、一連の解析が完了したので、使用したソフトの概要と調査結果に関して、報告する。

2. シミュレーションソフトの概要

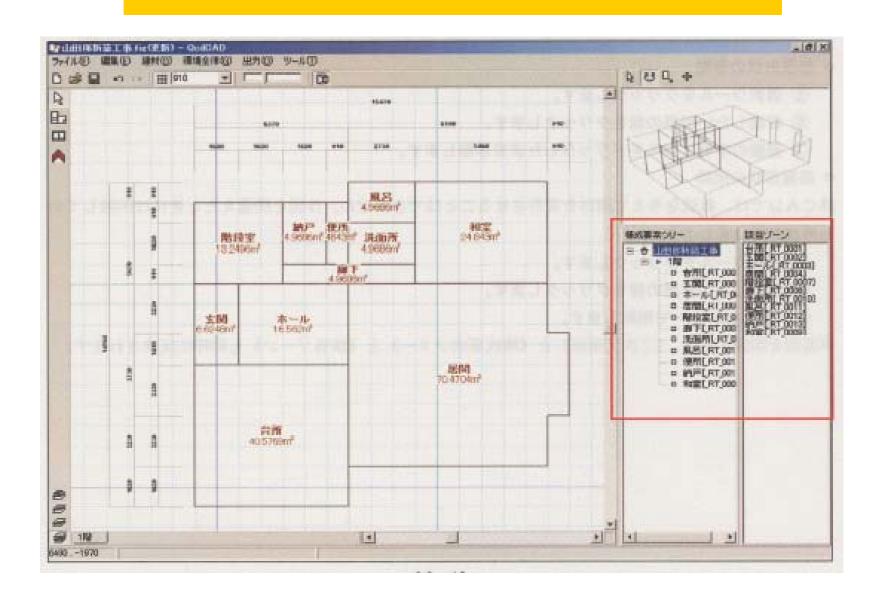
【シミュレーションソフト】

国土交通省特別評価認定 多数室間温熱解析ソフト 『TRNSYS J』: ㈱クアトロ社製

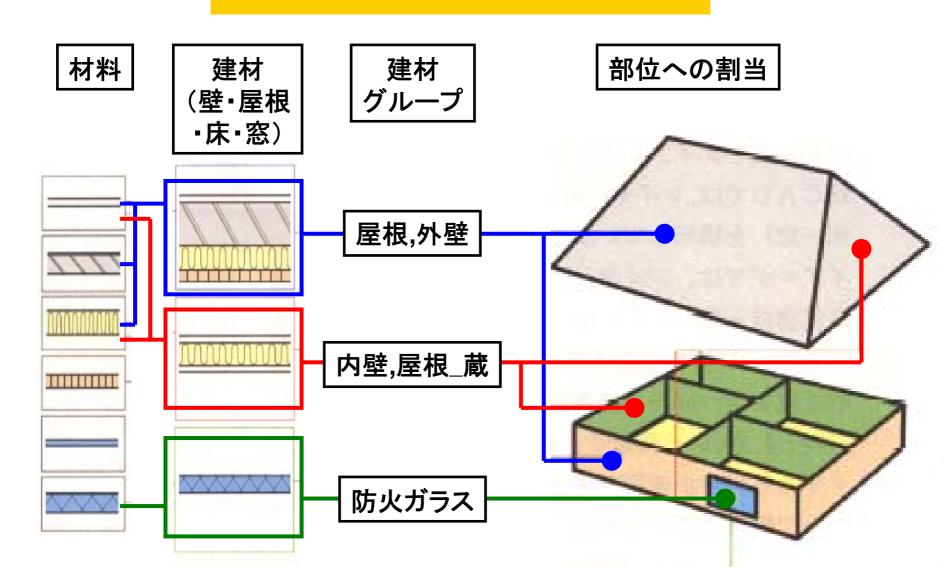
【インプット、アウトプットの概要】

	<インプット>										
	大項目	小項目	具体的項目								
1	建物モデル作成	1・2階モデル作成	•建物方向指定								
			・部屋数・形状,窓(開口部)の設定								
)	屋根モデル作成	•屋根形状								
2	建材設定	部屋単位,壁単位,部位単位で 建材を選択	・データベースからRW断熱材とその厚さ等の仕様も含めた建材を選択 (複数層の建材登録・選択可能)								
3	気象環境設定	拡張アメダスデータ気象から選択	·対象地域を選択								
	 		(全国842ヶ所)								
4	暖冷房設定	暖冷房スケジュール	・空調機の台数及び性能設定								
			・暖冷房設定温度と1日の運転状況								
		在室スケジュール	-1日の各部屋の在室状況								
		熱源スケジュール	・家電製品等の設定(種類、容量等) ・1日の運転状況								
		その他	換気回数設定								
〈アウトプット〉 ・1Hr~365日の室温変動や月毎の消費エネルギー,CO2排出量											
	温熱計算結果	- 室内温度状況の3次元サーモビューア									

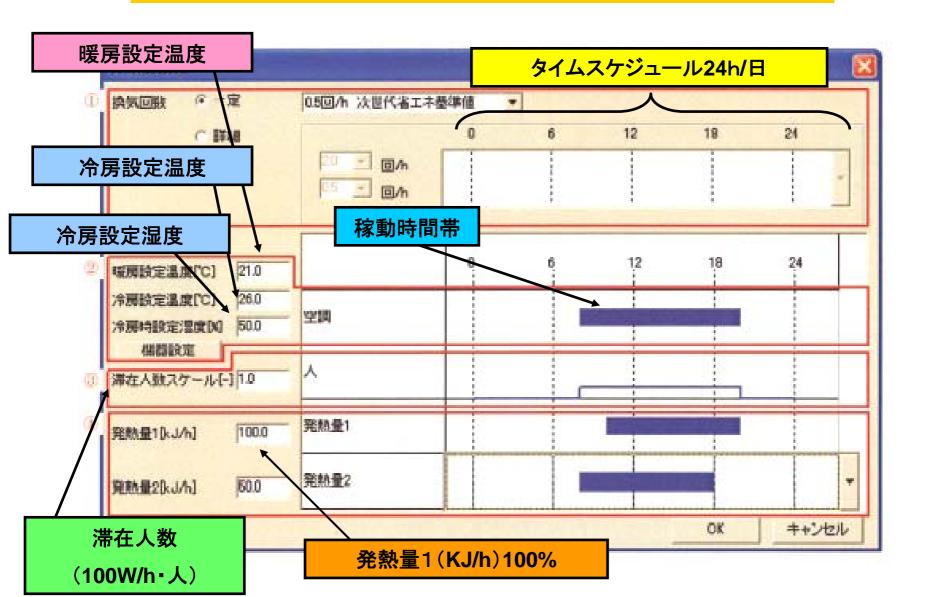
【建物モデルの作成事例】



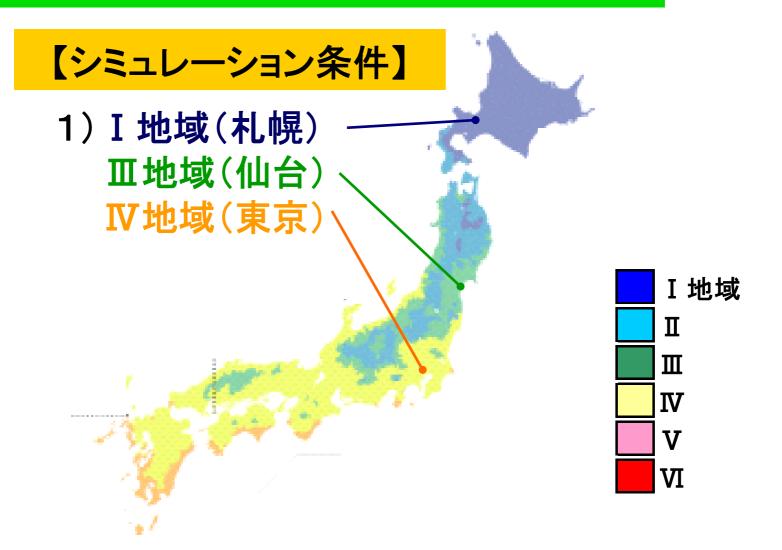
【建材の選定事例】



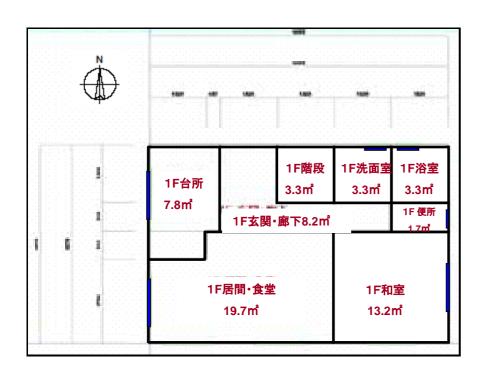
【1日のスケジュールの事例】

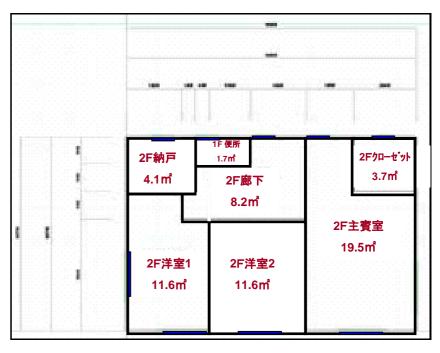


3. シミュレーションソフトの解析



2)建物の形状等 建築学会標準モデル 木造2階建住宅(延床面積121.74㎡)





3)建材の仕様条件

- ・無断熱仕様は、地域によらず同じ条件
- ・断熱材、窓、換気回数は、地域別の次世代省エネルギー基準に準拠

仕様		無 断 熱 仕 様	次世代省エネルギー基準											
1	工作來	(Ⅰ~Ⅳ地域共通)	I 地域(札幌)	Ⅲ地域(仙台)	Ⅳ地域(東京)									
屋根		スレート5.2mm+合板12.0mm												
天 井 (2F)		-	ロックウール断 熱 材 マット215mm	155mm	155mm									
		石膏ボード9.0mm												
	外側	セメント系 サイディング 15.0mm												
	1	通気層												
壁	1	-	ロックウール断 熱 材 マット125mm	9 O mm	9 O mm									
	内 側	石膏ボード12.0mm												
	床	フローリング 15.0mm + 合 板 12.0mm												
(1F)		_	ロックウール断 熱 材 フェルト120mm	80mm	80mm									
ガラス 窓		単層ガラス(3)	LowEカ [*] ラス (3+12+3)	LowEガラス (3+6+3)	複 層 ガラス (3+6+3)									
		6.31[W/m²K]	熱貫流率 1.69[W/㎡K]	2.64[W/m³K]	3.35[W/m³K]									
換象	気回数	1.0回/h	0.5回/h	0.5回/h										

4)空調機、在室、室内の発熱スケジュール

- ・空調対象室の暖冷房設定は、以下で実施
- ・次世代省エネルギー基準では、建物内で生活する居住者などの室内発熱 を考慮していないが、実際の住宅環境を想定し、室内発熱<mark>有り</mark>も実施

空調	対象室	居室(居間、食堂、主寝室、洋室)						
	暖冷房設定	暖房 18.0℃						
		冷房 27.0℃(相対湿度60%)						
	COP値	1. 0						
室内発熱	家族構成	4名(父母と子供2名)						
	照明・電気機器の 発熱スケジュール	別紙参照						

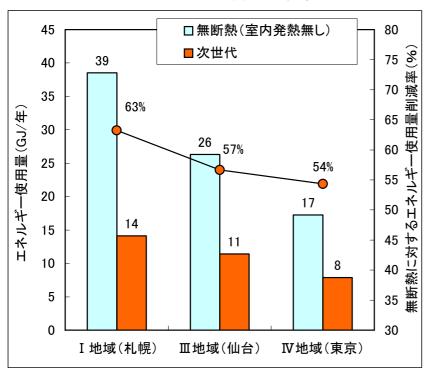
【各室内の1日における発熱スケジュール】

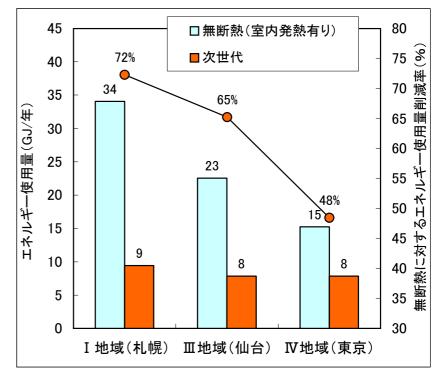
部屋	発熱体		1日の発熱 スケジュール(%)																				
ゾーン	項目	稼動 100%時	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時
居間•	在室人数	4名	0	0	0	0	0	0	25	100	25	25	25	25	25	25	0	0	75	75	75	75	75
	空調稼動	(COP値=1)	0	0	0	0	0	0	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	照明	300W	0	0	0	0	0	0	60	60	60	0	0	0	0	0	0	0	100	100	100	100	100
	機器	100W	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
台所	照明	60W	0	0	0	0	0	0	100	100	100	0	0	0	0	0	0	0	100	100	100	100	100
	調理	600W	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100	100	0	0
	冷蔵庫	45W	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	在室人数	2名	100	100	100	100	100	100	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
主寝室	空調稼動	(COP値=1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	照明	100W	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	在室人数	1名	100	100	100	100	100	100	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
洋室	空調稼動	(COP値=1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
	照明	180W	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100	100	100	100
廊下• 玄関	照明	60W	0	0	0	0	0	0	100	100	100	0	0	0	0	0	0	0	100	100	100	100	100
洗面室	照明	40W	0	0	0	0	0	0	100	100	100	0	0	0	0	0	0	0	100	100	100	100	100
沈凹至	機器	100W	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
浴室	照明	60W	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【 解析結果 】

断熱材等による省エネ効果

- ・無断熱に対して5~7割のエネルギー削減効果有り
- 省エネ効果は、寒冷地域ほど大きい(I>Ⅱ>Ⅲ地域)
- ・室内発熱有無の比較では、<mark>有り</mark>の方が省エネ効果が大きいが、地域の温暖化 (I →Ⅲ→Ⅳ地域)に伴い、有無の差は無くなる



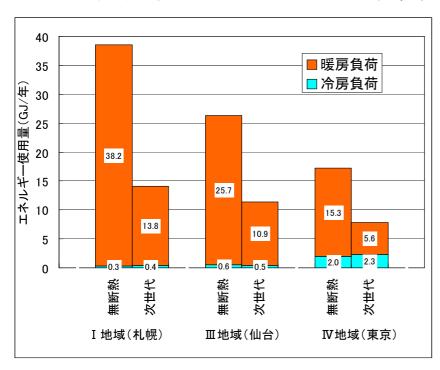


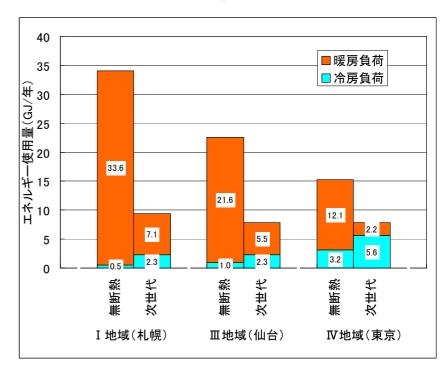
室内発熱無し

室内発熱有り

寒冷地域ほど省エネ効果が大きい理由

- ・断熱等の基準化は、主に暖房エネルギー削減に寄与し、暖房 エネルギー使用量が多い寒冷地域ほど、その削減効果は大きい
- 室内発熱有りのエネルギーも、暖房エネルギー削減に寄与している



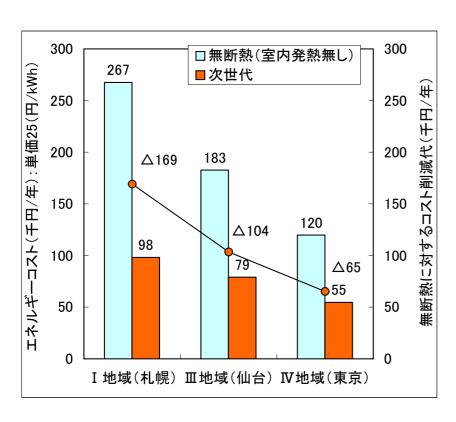


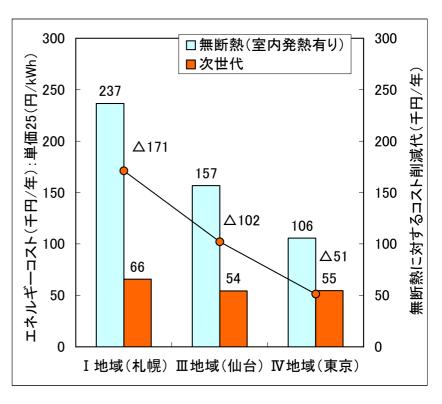
室内発熱無し

室内発熱有り

断熱材等によるエネルギーコスト削減効果

金額に換算すると最も削減効果が大きい I 地域では、 年間約170(千円)と大きなメリットが期待できる



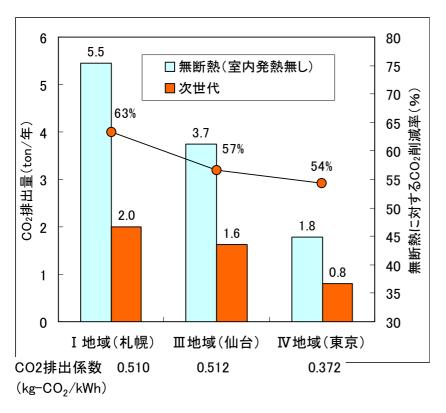


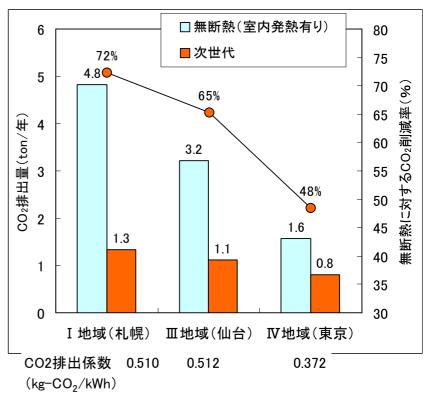
室内発熱無し

室内発熱有り

断熱材等によるCO₂排出量削減効果

 CO_2 排出量に関しても、省エネ効果と同様であり、最も削減効果が大きい I 地域では、年間3.5 $(ton-CO_2)$ の削減効果を期待できる



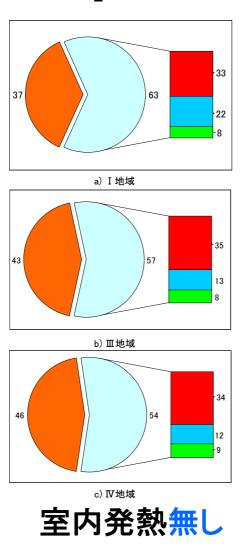


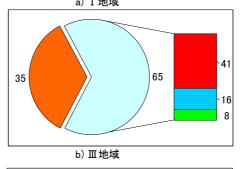
室内発熱無し

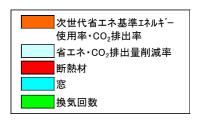
室内発熱有り

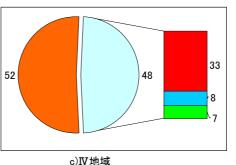
断熱材の省エネ及びCO₂排出量削減効果への寄与

省エネ及びCO2排出量削減効果のうち、断熱材寄与が5~7割占めている









室内発熱有り

4. おわりに

室内温熱解析用ソフトを利用したシミュレーション調査 により

- 1)室内発熱有無に係らず次世代省エネルギー基準化により、 エネルギー使用量・CO2排出量・コストの各削減率は、 5割以上見込まれることが判った。
- 2)この削減効果のうち、断熱材が5~7割、窓2~3割程度、 残りが換気回数により、断熱材の効果が大半を占めていた。
- 3)地域別の削減率では、寒冷地域ほど大きく、断熱等による基準化は、主に暖房負荷軽減に寄与していることも判った。

今後の方針として、住宅用ロックウール断熱材が地球温暖化対策に貢献している製品ということを再認識し、広く社会にPRしたい。